

今週（12月17日から12月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して軟調な展開となった。日銀当座預金残高は、380兆円台での推移となる中、無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.086～▲0.035%程度での出合いが中心となった。14日の年金定時払い、20日の国債大量償還に加え、今積み期間からマクロ加算基準比率が減少した事、営業日が変則的な事も影響し、資金調達ニーズの弱い状況が続いた。ターム物は、年内物となるショートタームを中心に▲0.05～▲0.035%近辺での出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは21日に2W物・8,000億円がオファーされ、5,466億円（期落ち額3,131億円）となった。

12月19日～12月20日に開催された金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.220～▲0.100%程度の水準で推移した。週の後半にかけてレート水準を大きく切り上げた。

SC個別銘柄では、5年130～137、10年335～352、20年160～166、30年55～60、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年末を控えて全般的に閑散な中、世界的なリスクオフの流れを受けて長期債がしっかりした地合いとなり、短国市場も堅調な相場展開が続いた。

18日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額が少額にとどまる中、全取落札利回較差+0.160%、平均落札利回較差+0.160%と市場の想定外の結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.175～▲0.165%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1697%、按分落札利回▲0.1527%と平均レートは前回から低下したものの、按分レートが流れる結果となった。セカンダリーでは、▲0.17～▲0.16%での出合いと堅調に推移した。

21日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.22%から▲0.25%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.2053%、按分落札利回▲0.1751%と前回債からレートは上昇する結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、事業法人の年末資金需要等から、年末越え物を中心に週を通して活況なマーケットとなった。石油、鉄鋼、小売、ノンバンク業態など幅広い業態から大型案件が見られた。週間発行総額は1兆4,000億円程度に膨らんでおり、事業法人のCP発行姿勢は強く、市場残高も20日時点で11月末から1兆1,468億円増額の20兆9,461億円となっている。ノンバンクと一般事業法人を合わせた事業法人全体では18兆円台半ばと過去最高となっている。発行レートは、年内物については投資家の運用目処がつつきつつあり、0%近辺が中心となっている。年末越え物については、12月末は3・9月末に比べて有利子負債削減の動きが弱い為、浅いマイナスでの決着も見られた。但し、市場ニーズの少ない年内物や、年初期日の大型発行ではプラスレートも見られている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/17 (月)	21,506.88	0.030	113.48	△ 0.067	△ 0.226	3,833,100
12/18 (火)	21,115.45	0.025	112.50	△ 0.068	△ 0.205	3,837,200
12/19 (水)	20,987.92	0.030	112.40	△ 0.070	△ 0.201	3,826,300
12/20 (木)	20,392.58	0.025	112.52	△ 0.071	△ 0.200	3,898,700
12/21 (金)	20,166.19	0.035	111.24	△ 0.071	△ 0.155	3,896,200

来週（12月25日から12月28日）の短期金融市場動向

● 経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/24 (月)	振替休日 クリスマスイブ				EURO祝日(Christmas Eve)
12/25 (火)	クリスマス 11月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 10月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				New York、EURO、London祝日(Christmas Day)
12/26 (水)	日本経済団体連合会審議委員会において、黒田総裁講演 金融政策決定会合議事要旨(10月30・31日分 8:50)	2Y 21,000億円 1/4発行			EURO祝日(Christmas Holiday) London祝日(Boxing Day) 10月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数
12/27 (木)	11月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				11月の米新築一戸建て販売件数 12月の米CB消費者信頼感指数
12/28 (金)	決定会合における主な意見(12月19・20日分 8:50) 11月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 12月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 11月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 11月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50)				

● 資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/24 (月)	振替休日								
12/25 (火)	▲ 3,000	▲ 100	▲ 3,100	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 3,100 ▲ 800 ▲ 100 200	5,500 800 2,500	5,000	1,900	TB3M発行▲42700償還42100 流動性供給▲6000
12/26 (水)	▲ 3,000	▲ 2,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	
12/27 (木)	▲ 4,000	▲ 2,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	
12/28 (金)	▲ 600	▲ 2,900	▲ 3,500	CP買入		2,000	2,000	▲ 1,500	
週間合計	▲ 10,600	▲ 7,000	▲ 17,600	—	▲ 3,800	10,800	7,000	▲ 10,600	

12/25は日銀予想、12/26以降は当社予想

● 短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、特段、大きな需給要因も無く、引き続き資金調達ニーズの弱い展開が見込まれる。ターム物に関しては、年越え物は一服し、一月スタート物が中心になると予想される。レポ市場は、年内については参加者のスタンスに大きな変化がなければ▲0.10%台前半での推移が見込まれる。ただし、年末初物の取引については、ボラティルな動きが予想される。短国市場は、入札の予定がなく、海外勢がクリスマス休暇に入っている中、閑散なマーケットとなることが予想される。CP市場は月末発行となるため、更に年末越え物を中心とした発行が活発化すると思われる。25日はCP等買入オペが2,000億円予定されている。年末償還を迎える銘柄が多いため、オフア額の増額が注目される。

主要なイベントは、特段無い。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入